

「ゼロカーボンシティみなみいせ」をめざして

～2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ～

南伊勢町は熊野灘に面したリアス海岸を有し、その海岸線を中心に町域の約6割が伊勢志摩国立公園に指定され、風光明媚な自然が保たれています。

古くから、漁業あるいは海上交通の拠点として栄えた、海とともに生きた町で、現在は、県内トップの水揚げ量を誇る、優良な漁場を軸とした各種漁業が盛んで、農業は、日当たりの良い傾斜地を活用し、温州みかんをはじめとした柑橘類の栽培が盛んで、年間のうち多くの期間で柑橘類が収穫されています。

この貴重な自然や歴史的・文化的な資源を私たちの将来の世代に長く引き継いでいかなければなりません。

しかし、近年では、巨大化した台風、集中豪雨、猛暑等がもたらす自然災害が頻発しており、それらは人類の経済活動により排出される温室効果ガスの影響によるものと言われています。

このまま温室効果ガスが増加すれば、海面水位の上昇、農産物の品質低下(食料不足)、果樹の栽培適地の変化、熱中症の増加、感染症の発生リスク拡大など様々な要因を引き起こしかねない状況となることが課題となっています。

2015年、パリ協定では「産業革命からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。

日本では、2020年10月26日の菅総理大臣就任後初の所信表明演説で「2050年、温室効果ガス実質ゼロ」が掲げられ、地球温暖化対策に取り組む具体的な年限が示されました。

三重県では、2019年12月15日に開催されたみえ環境フェア2019で、「ミッションゼロ2050 みえ～脱炭素社会の実現を目指して～」と称し、鈴木三重県知事より、県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す脱炭素宣言が出されています。

南伊勢町では、町内全ての街路灯等のLED化、電気自動車普及促進対策として公共施設でのEV自動車用急速充電機の設置、住宅用太陽光発電システム設置補助事業等の再生可能エネルギー普及促進を通して、二酸化炭素排出量削減対策に取り組んでいます。

また、豊かな自然を活かし、森林保育・耕作放棄地再生の仕組みづくり、藻場保全、海藻類の養殖振興など、陸上と海洋の植物を適性に管理・活用することで、グリーンカーボンオフセット・ブルーカーボンオフセット量を増加させ、バイオキャパシティの質と持続性を高めることにより、二酸化炭素吸収・固定化量増加対策などを進めていきます。

そこで、南伊勢町総合計画『新絆プラン』で将来像として掲げる「生命力みなぎる常若のまち」を実現し、かけがえのない私たちの故郷を未来の世代につないでいくために、さらに高い環境課題への取り組みとして、「2050年までに南伊勢町の二酸化炭素の排出量を実質ゼロ」とする「ゼロカーボンシティみなみいせ」に町民、事業者、南伊勢町に関わる全ての主体における総働により、挑戦することを表明します。

令和2年12月1日

南伊勢町長 小山 巧